

早稲田大学 商学部 国語 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク式・記述式併用
試験時間	60分(現代文1問、古文1問)
難易度	昨年よりやや難化

〔大問別講評〕

□ 評論文。「宣長の学問的方法における問題点」について。

出典：守本順一郎『日本思想史の課題と方法』。

《本文字数：約 4200 字＝昨年より約 200 字増加。設問数：11＝昨年と同じ。》

小問	難易度	コメント
問一	やや易	【漢字】2は「図体」という語を知っていたか？ 3は文脈から意味を考える。
問二	易	【漢字書き取り】同音異義語もなく容易な問題。
問三	やや易	【脱文挿入】脱文中の指示語より、直前に「対象化」について書いてあると推測する。
問四	易	【空欄補充】空欄の直前3行の内容から容易に判断できる。
問五・A	易	【空欄補充】空欄Aの前後の文脈から容易に判断できる。
問五・C	標準	【空欄補充】IV段落以後の宣長の方法と、それに対する筆者の批判とを読み取る。
問六	難	【空欄補充】直後の引用部分を丁寧に読み解く必要がある。
問七	やや易	【傍線部理解】IV段落の2行目と最終行より。
問八	標準	【傍線部説明】VI段落の宣長に対する批判を読み取る。
問九	難	【傍線部理解】傍線cを宣長に対する批判として捉えられたか？ 制限字数がヒントとなる。
問十	やや易	【理由説明】直前の内容から明らか。選択肢も紛らわしくない。
問十一	やや難	【内容合致】イとハで迷うが、イは「思考」が誤り。

二 古文。出典：『住吉物語』。

《本文字数：約 1200 字＝昨年より約 100 字減少。設問数：8＝昨年より2問減少。》

小問	難易度	コメント
問一・A	標準	【空欄補充】単語の正確な理解が問われている。「むくつけし」は「恐ろしい」の意。
問一・F	やや易	【空欄補充】直前部分から容易に判断できる。
問一・H	標準	【空欄補充】単語の正確な理解が問われている。「まがまがし」は「縁起が悪い」の意。
問二・1	標準	【文脈把握】直前の姫君のセリフ、及び、直後の一文とのつながりから判断する。
問二・5	標準	【文脈把握】傍線部の「ばかり」に着目。二は「わからない」が不適。
問二・7	やや難	【文脈把握】何が恐ろしいのかを傍線部までの内容から読み取る。
問三	標準	【敬意の対象】各文の主語を丁寧に補って読み進めていけたかどうか問われている。
問四	易	【文脈把握】直前の「いとうつくしき若君いできたまへり」から容易に判断できる。
問五	やや易	【空欄補充】各空欄の直前、直後から容易に判断できる。
問六	易	【空欄補充】直前の内容から空欄には希望の助動詞が、直後の「ども」から空欄には已然形が入ると分かる。
問七	標準	【内容合致】ハが空欄Fの直前の内容と一致する。
問八	易	【文学史】文学史の基本知識が問われている。

〔総合コメント・今後の指針〕

古文は昨年並みの難易度だが、現代文がやや難化した。漢文に関わる設問は全く出題されなかった。

大問一は、「宣長の学問的方法における問題点」をテーマにした評論文。本居宣長は古文で学習する重要人物なので、多くの受験生にとって親しみやすい内容だったろう。ただ、第5段落以降がやや難しいため、丁寧に読み進めていかないと思わぬ失点をしてしまったかもしれない。設問では問六と問九が難問であったが、他はそれほど難しくないもので、全体として高得点を狙いたい。

大問二は、『住吉物語』。昨年の『うつほ物語』に続いて頻出出典からの出題である。単語のレベルもそれほど高くなく、複雑な省略もほとんどなかったもので、読みやすかったであろう。設問は、標準レベル以下のものがほとんどだったので、大問一と同様に高得点を狙いたい。なお、『住吉物語』は、『落窪物語』の影響を受けた継子いじめの物語。頻出出典に関しては、大まかなあらすじや登場人物の関係は把握しておきたい。